



56 横山大観《鸛鶴》

大正十五年（一九二六）

紙本墨画

本紙七八・九 × 一〇六・四

大正十五年、宮中の調度として屏風と掛幅の製作を命じられた横山大観（一八六八〜一九五八）は、特別に宮中の拝観を許された。その時に目にしたのが、吹上御苑で飼育されていたハツカチヨウ（別名叭々鳥。漢名鸛鶴）であった。ハツカチヨウは中国では古くから人語を真似る飼い鳥として親しまれ、花鳥画に描き込まれる例も多い。日本でも室町時代以降漢画派を中心に叭々鳥図は数多く描かれてきたが、日本に生息していなかったため正確さに欠け、カラスに似た容姿で描かれる例も目立つ。そうした絵の中でしか目にしたことのない珍鳥が眼前に現れ、大観は画想を強く刺激されたのだろう。予定していた御下命作とはまた別に、本図を製作し貞明皇后に献上した。一見さらりと描いているように見えるが、この構図にたどり着くまでに十数回描き直しをしたと大観は語っている。また墨の柔らかな滲みと深みのある墨色を出すために、麻紙から墨、筆まですべて特別にあつらえたものを用いたという。ハツカチヨウを描いた水墨画の名品としては宋末元初の牧谿や清の八大山人の作がよく知られているが、大観もそうした古典を念頭に置きつつも実感を込めて本図を描いたものと思われる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan